

施工計画書作成における留意事項（土木工事編）

1 基本事項

施工計画書は受注者が適切に施工管理を行い、安全に工事を進めるための重要な書類である。

記載内容については、静岡県土木工事共通仕様書（以下、「共通仕様書」という。）に基づき、以下の点を考慮し、工事実施に必要な項目について本書を参考に記載する。

- ① 工事目的・内容・契約条件
- ② 現場条件（気象・地形・道路状況・地下水・環境・制約条件等）
- ③ 全体工程
- ④ 施工方法（施工順序・使用機械等）
- ⑤ 仮設備の選択と配置

2 要点

上記基本事項を十分調査・検討・把握し、施工性・経済性・安全性との関連を繰り返し検討しながら最適な施工計画を立案し決定する。

3 その他

- ・ 施工方法の変更が伴わない施工数量の増減（工期末の精算変更等）、わずかな工期の変更、現場代理人等の変更に伴う組織表変更など軽微な変更については、変更施工計画書の作成は要しない。
- ・ 変更施工計画書は変更箇所のみ作成する。
- ・ 当初及び変更の施工計画書は施工前に監督員へ提出する。
- ・ 記載例はあくまでも例であり、工事特性に合わせて適宜削除・追加する。
- ・ [] 内の記載は静岡県が作成した「土木工事現場実務の手引き」を引用した。
- ・ 書類作成においては、可能な限り両面印刷とし、コンパクト化に努める。

記載事項

- 1 工事概要
- 2 計画工程表
- 3 現場組織表
- 4 指定機械
- 5 主要資材
- 6 施工方法
- 7 施工管理計画
- 8 安全管理
- 9 緊急時の体制及び対応
- 10 交通管理
- 11 環境対策
- 12 現場作業環境の整備
- 13 再生資源の利用と促進と建設副産物の最適処理方法
- 14 創意工夫・地域貢献等
- 15 その他

※小規模工事（当初請負金額 500 万円未満）は、3,5,8,9,10,13 を記載する。

記載内容及び留意事項

1 工事概要

工事名、工事箇所、工期等の工事概要を記載し、工事内容として工事の工種、種別、細別、単位、数量を契約書に従って記載する。

《工事概要の記載例》

工事名 市道〇〇線道路改良工事
 工事箇所 三島市 〇〇 地内
 工期 着手 〇年〇月〇日 完成 〇年〇月〇日
 請負金額 〇〇,000,000 円

《工事内容の記載例》

工種	種別	細別	単位	数量	摘要
土工			式	1	
排水構造物工	1 型側溝工	400 * 400	m	150	
コンクリート構造物	L 型擁壁工	H=2m	m	80	
舗装工	表層工	t=5cm	m ²	1000	

※設計書のコピーで代用もできる。

2 計画工程表

工程表はバーチャート、ネットワーク等を用い、進捗率曲線の記入により、現実の工程と対比が容易にできるようにする。

- ・気象（降雨、気温等）地質や地下水等が施工に大きく影響を受ける工種は十分調査、検討し工程表に反映させる。
- ・道路工事抑制期間も考慮し作成する。

3 現場組織表

契約書により必要な管理者を定め、組織表を作成する。現場代理人及び主任技術者等は夜間連絡先を記入する。

- ・現場組織表は、現場における組織の編成、命令系統及び業務分担がわかるよう記載する。

4 指定機械

低騒音型建設機械、標準操作方式建設機械、排出ガス対策型建設機械などの設計図書で指定された機械の名称、規格、台数などを記載する。

- ・当該工事で使用する機械について記載する。（排ガス規制型、低騒音型等も記載）

《記載例》

機械名	規格	台数	使用工種	備考
バックホウ	0.25 m ³	1	床掘	低騒音・排ガス対策型
タイヤローラー	8-12t	1	路盤合材転圧	排出ガス対策型

5 主要資材

主要資材の品名、規格、寸法、数量、購入会社名を一覧表で記載する。

《記載例》

品名	規格・寸法	数量	購入先	搬入時期	備考
再生クラッシャーラン	RC-40	50 m ³	〇〇産業	8 月下旬	成績表
異形棒鋼	D13	0.8t	〇〇製鉄	9 月上旬	ミルシート
コンクリート	18-8-25BB	10 m ³	〇〇生コン	9 月下旬	配合計画表

6 施工方法

主要工種において、工事の安全、所要の品質確保等を考慮して施工順序、検測確認の段階などについて記載するとともに使用機械について使用方法等を記載する。また、他工事との調整、地下埋設物の対策、用排水調査、他官庁との協議、地元への周知、苦情に対する措置方法等も必要に応じて記載する。

- ・一般事項と主要な工種及び設計図書で指定された工種について共通仕様書等に基づき具体的な施工方法を記載する。
- ・共通仕様書に記載のない特殊工法についても記載する。
- ・施工ステップ、使用機械、注意事項、品質管理、監督員立会等を記載する。
- ・仮設の構造や配置計画についても具体的に記載する。
- ・共通仕様書で記載しなければならない事項（コンクリート 1 回の打込み高さなど）は必ず記載する。
- ・作業状況がわかるポンチ絵が張付けてあると作業内容が分かりやすい。

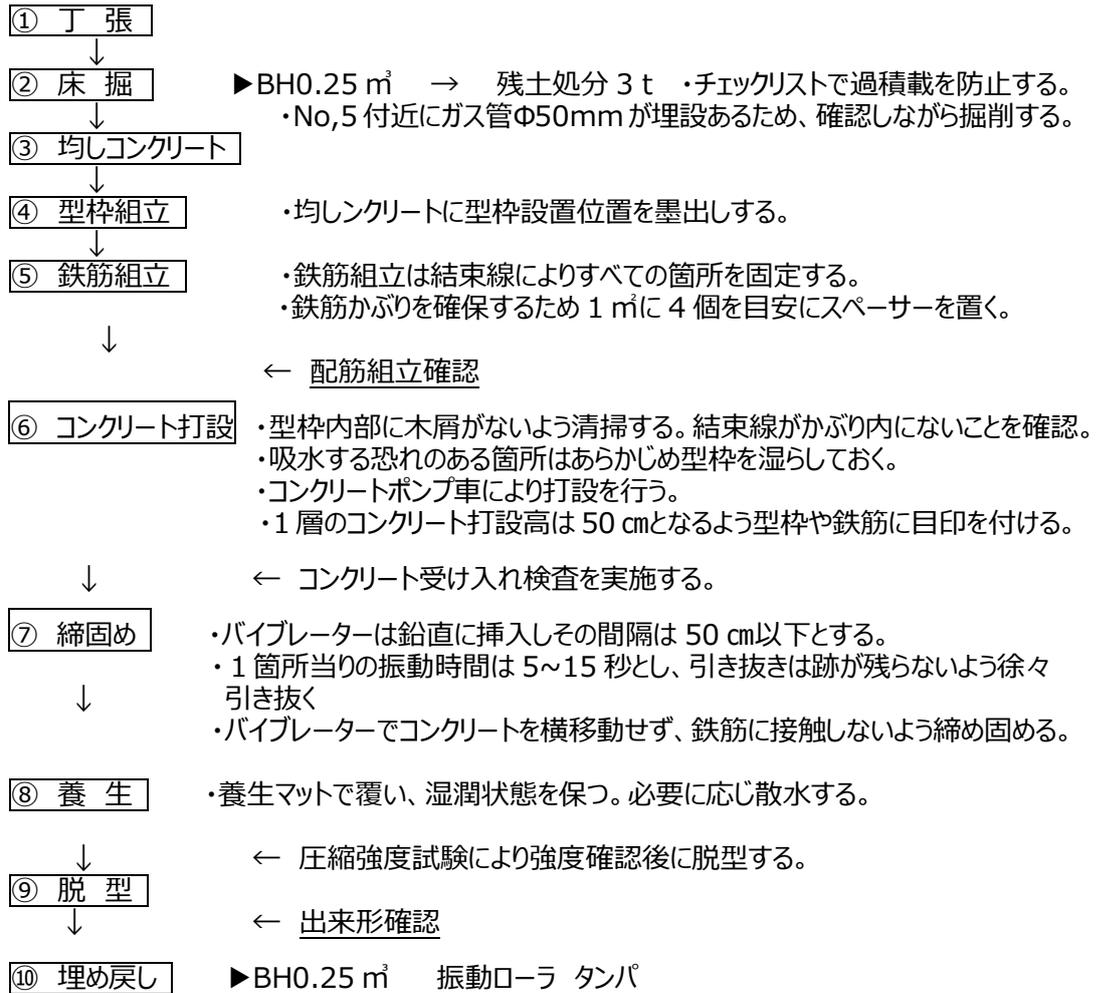
《記載例》 ※受注者のフォーマットでも構わない

【一般事項】

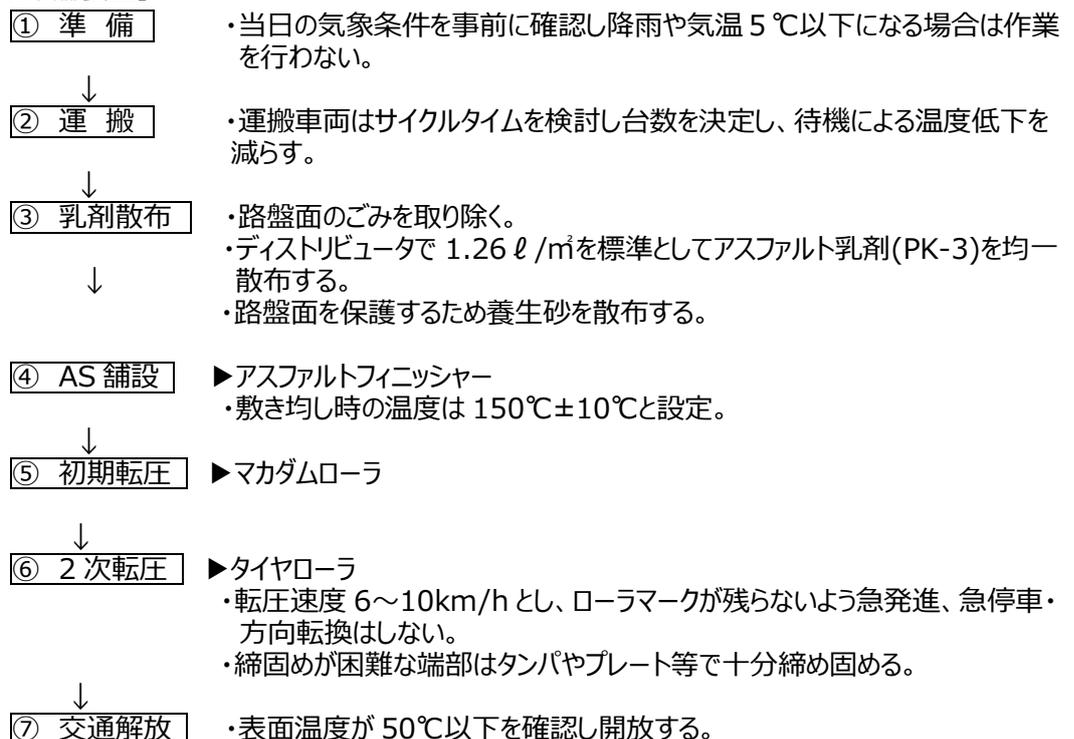
作業時間

8:00～8:30	朝礼・K Y 活動・準備
8:30～	作業開始
10:00～10:15	休憩
12:00～13:00	昼食
13:00～	作業開始
15:00～15:15	休憩
16:50～17:00	片付け

【L 型擁壁工】



【アスファルト舗装工】



7 施工管理計画

- (1) 工程管理：計画工程表に基づく工程管理の方法を記載する。
 (2) 出来形管理：施工管理基準及び仕様書に基づき、当該工事に必要な測定項目を記載する。
 (3) 品質管理：試験項目一覧表を作成する。主要なものは試験方法、管理方法、試験場所なども記載する。
 (4) 写真管理：施工管理基準に基づき撮影計画一覧表を作成する。

- ・静岡県土木工事施工管理基準及び取扱要領（以下「管理基準等」という）に基づき管理計画を立案する。
- ・段階確認等の立会計画表を記載する。

(1) 工程管理

- ・日常的な管理や日々の作業量を把握し、計画作業量を維持するための方法を記載する。
- ・毎月末に実施工程を記入し、計画との進捗率を比較する。
- ・計画に対して〇〇%の差が生じた場合のフォローアップの実施方法を記載する。

(2) 出来形管理

- ・管理基準等に基づき測定項目、管理測点及び規格値を具体的に記載した計画表を作成する。
- ・必要な工種が記載されているか、施工規模に見合った測定箇所、頻度となっているか、不可視部の測定方法等が適切かなどを検討し計画を立案する。
- ・管理基準に定めのないものは監督員と協議をして決定する。
- ・重要な工種において、管理測点が5点以上ある場合は、ばらつき（規格値に対し 50%、80%以内）の分かる図表を作成し管理する。
- ・社内規格値を定めて管理する場合は、その内容と規格外となった場合の是正方法を記載する。

《記載例》

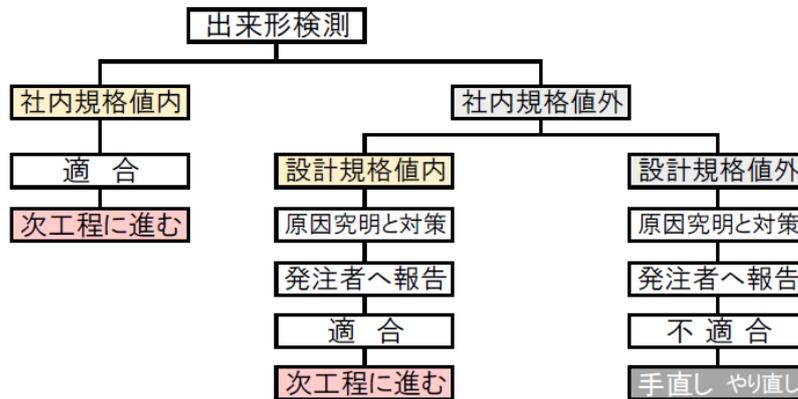
出来形管理計画表

種別	細別	管理項目	規格値	社内規格値	管理方法	測定基準 測定箇所（測点 [※] ）	摘要
道路土工	掘削	基準高	±50	±40	出来形管理表	施工延長 40m毎に 1箇所	
		法長	-200	-160			
		幅	-100	-80			
側溝工	基礎砕石	幅	設計値以上	設計値以上	出来形管理図	測点毎に 1箇所 No,1,3,5,7,9 [※] (具体的な測点を記入)	
		厚さ	-30	-24			
	均しコンクリート	幅	設計値以上	設計値以上			
		厚さ	-30	-24			
	1型側溝工	基準高	±30	±24			
		延長	-200	-160			
舗装工	表層工	厚さ	-9	-7	出来形管理図	40m 毎に 1箇所 No,1,5,9 [※]	
		幅	-25	-20	出来形管理図		
		平坦性	3m ² プロファイル 2.4 mm以下		測定報告書	全線	
		面積	—	設計値以上	出来形展開図		
		基準高	±30	±24	出来形管理図		

※測定基準・測定箇所は工事特性に応じ決定してよい。予め測点を決めておくことよい。

《記載例》

社内規格値管理フロー



(3) 品質管理

- ・施工管理基準等に基づき測定項目、試験頻度及び規格値などの管理方法を具体的に記載した計画表を作成する。
- ・基準にないものは監督員と協議をして決定する。

《記載例》

品質管理計画表

工種	種別	測定項目	施工規模	規格値	試験頻度	管理方法	摘要
擁壁工	生コンクリート 24-8-25BB (材料)	塩化物総量規制	20m ³	0.3kg/m ³ 以下	荷卸し時 1回/日	品質証明書	50m ³ 未満
		スランプ試験		±2.5cm		品質証明書 受入検査	
		空気量測定		±1.5%			
		圧縮強度試験		呼び強度の 85%以上		圧縮試験実施	
	" (施工)	練り混ぜ～打設完了 までの時間管理		外気温 25℃を超えるときは 1.5h、25℃以下のときは 2h	施工時	管理表作成	
		温度管理 (外気温・養生温度・ コンクリート温度)		日平均気温が 5℃を下 回らない。 打設時の気温が 35℃ を超えていない	施工時	管理表作成	

(4) 写真管理

写真は、施工が仕様書あるいは施工計画書どおりに実施されたことを示す重要な資料であるため下記の事項に留意する。

- ・撮影計画表は「何を」「いつ」「どこで」等の目的を明確にし、管理基準等に基づき作成する。
- ・品質管理、出来形管理の撮影項目、撮影時期や頻度については、工事規模に応じ具体的に決め計画表にまとめる。

- ・不可視部は品質・出来形が設計図書どおりであることが確認できるよう特に注意して撮影する。
- ・撮影は目的が確認できる必要最小限の箇所や枚数とする。
- ・黒板は工事名、工種、位置（測点）、設計寸法、実測寸法や立会日、試験日等の文字が判読できるように写し込む。
- ・工事写真は以下のとおり分類する。

着手前および完成写真	
施工状況写真	仕様書、計画書に基づいた施工方法の記録
安全管理写真	安全確保に関する記録や保安施設等の具体的な記録
使用材料写真	材料検査や保管状況および使用数量の記録
品質管理写真	品質を確保するための管理記録
出来形管理写真	数量、寸法等の記録
災害・事故写真	
その他	建設副産物の処理など

《記載例》

撮影箇所一覧表

区分	工種	写真管理項目			摘要
		撮影項目	撮影頻度	提出頻度	

(5)段階確認・立会計画

共通仕様書及び特記仕様書に定めのある工種や不可視部も含め計画工程表に基づいた立会を計画する。

《記載例》

段階確認・立会計画表

工種	確認項目	立会予定時期	摘要
下層路盤工	プルーフローリング	○月中旬	段階確認
基礎コンクリート	出来形確認	○月上旬	不可視部確認

8 安全管理

安全管理組織表、安全管理対策、重機械作業対策等を記載する。

また、安全意識の高揚・安全な施工体制環境を整えるために安全訓練活動及びビデオ等による安全教育を月あたり半日以上行うことなどを記載する。

- ・安全管理組織表にて責任者・管理者等を記載する。
- ・事故発生時の連絡体制や救急病院等についても記載する。
- ・安全管理活動について記載する。
- ・関係法令（労働安全衛生法等）や指針（土木工事安全施工技術指針、建設機械施工安全技術指針等）を参考に工事中の安全対策について具体的に記載する。
- ・主任者の配置や資格が必要な作業については、作業名と作業主任者の氏名等を記載する。
- ・仮設備を設置する場合の点検方法を記載する。
- ・第三者施設、公衆への安全管理対策として、建設工事公衆災害防止対策要領等に基づき、家屋やガス、水道等の地下埋設物および公衆への対策を具体的に記載する。
- ・工事の内容に応じた安全教育及び訓練等の具体的な計画を作成し記載する。
- ・火気を伴う作業や危険物を使用する場合は、保管および取り扱いについて記載する。

《記載例》

安全管理活動表

実施項目	場所	参加・実施者	内 容	頻 度
朝 礼	現場	現場作業従事者	当日の作業の手順及び体操	毎朝
K Y活動	現場	同 上	当日作業の危険予知し対策を立てる	朝礼時
災害防止協議会	会議室	関係請負人	情報共有・連絡調整と安全意識向上	月1回
安全巡視	現場	安全巡視員	現場内、周辺等の安全確保	毎日
店社パトロール	現場	安全衛生責任者	同 上	月1回
新規入場者教育	事務所	新規入場者	施工に関する注意及び確認	入場時随時
安全教育・訓練	事務所	現場作業従事者	別添計画表のとおり	月1回（半日）

《記載例》

安全教育及び訓練活動計画表

月	主な作業	教育・訓練内容
5月	準備工・仮設工	<ul style="list-style-type: none"> ・工事内容の周知徹底 ・避難訓練及び担架の使用方法 ・ビデオによる安全教育
6月	〇〇工・〇〇工	<ul style="list-style-type: none"> ・作業手順の周知徹底 ・車両系機械の危険防止について

《記載例》

作業主任者・資格者一覧表

作業主任・資格名	氏 名	会社名	免許等取得年月日
玉掛け作業主任者	△△ △△	□□建設株式会社	○年○月○日
移動式クレーン運転	未定		

※作業主任者が未定な場合は、当該工事にかかる作業名や必要な資格を記載する。

9 緊急時の体制及び対応

大雨、出水、強風等の異常気象時及び地震、水質事故、工事事故などが発生した場合に対する作業現場の防災管理体制と災害発生時の対策や土石流対策及び作業現場内において事故発生またはそのおそれがある場合の体制と対策等について記述するほか、作業中止の基準や再開手順、緊急時の連絡系統、連絡方法を系統図で表示する。

- ・緊急時の体制連絡系統図、災害対策組織表、業中止基準の数値設定を記載する。
- ・南海トラフ地震発生が相対的に高まった旨の情報が出された時の保全措置の内容を記載する。

《作業中止の基準例》

- 強風：最大風速 15m/s 以上
- 大雨：1 時間雨量 20mm 以上
- 地震：震度 4 以上

10 交通管理

当該工事に伴う資材の搬入、発生土等の運搬、工事現場周辺の交通対策と交通処理について記載する。

- ・共通仕様書（1-1-32 交通安全管理）に基づき交通処理方法・交通対策方法(交通規制処理図・交通誘導員の配置・条件含む)を記載する。
- ・迂回路を設ける場合は、迂回路、安全施設、案内標識の配置及び交通整理員の配置が把握できる図面を添付する。
- ・主要部材の搬入出経路や工事車両の出入り口対策等について記載する。
- ・大型運搬車両での土砂搬出する場合は、処分場までの運搬経路、制限速度や時間等の事項を記載する。
- ・過積載防止対策(周知方法やチェック方法等)を具体的に記載する。

11 環境対策

関連法令及び仕様書に基づき、騒音、振動・大気汚染、水質汚濁・ゴミ、埃・家屋、地下水・産業廃棄物への対応方法について記載する。

- ・騒音、振動対策では、「建設工事に伴う騒音振動対策技術指針」を遵守した対策を記載する。
- ・特に騒音、振動の具体的な対応策を記載する。（発生源、伝波経路、受音点での対策など）
- ・特定建設作業に該当する場合は届け出をする旨の記載をする。

12 現場作業環境の整備

現場事務所及び休憩所等において作業員が快適に作業できる環境の整備、土木工事のイメージアップを図るとともに地域住民と対話のできる環境方法について記載する。

- ・工事区域内の環境整備 整理整頓や服装チェックなど
- ・労働環境の整備 体調管理（熱中症対策）、休憩所の設置など
- ・衛生環境の整備 水洗トイレの設置など
- ・イメージアップ 現場事務所周辺の美装化（フラワーポットの設置等）

13 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法

当該工事から発生する建設副産物の量及び処理方法、処理場を記載する。

- ・建設副産物の処理場及び搬出経路を記載する。(契約書写しの添付は不要であるが、運搬・処分場許可書は添付)
- ・建設副産物適正処理推進要綱、建設廃棄物処理指針に基づき、「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を作成し施工計画書に添付する。
- ・建設副産物の処理場と運搬会社について一覧表にまとめる。

《記載例》

建設副産物 処理・運搬会社一覧表

建設副産物	処 分 会 社		運 搬 会 社		運搬経路
	会社名	許可有効年月日	会社名	許可有効年月日	
アスファルトガラ	〇〇建設	〇年〇月〇日	〇〇建設	〇年〇月〇日	別紙1
コンクリートガラ（無筋）	〇〇建材	〇年〇月〇日	自社運搬	〇年〇月〇日	別紙2
濁水	〇〇土木	〇年〇月〇日	〇〇建設	〇年〇月〇日	別紙3

※運搬経路は地図を用いて別紙に添付する。

14 創意工夫・地域貢献等

高度技術・創意工夫・社会性等についての提案を記載する。

15 その他

官公庁への届け出や諸手続きや設計図書で記載するよう指示されている事項及び監督員の指示された事項を記載する。

- ・特殊車両通行許可や特定建設作業の届け出等の受注者による手続きを記載する。
- ・地元への周知方法をなど記載する。